

各文構造解説

この冊子の使い方

1つの文について、【英文】→【構造】→【解説】→【語句】の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼^{そしやく}して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

凡例および注意点

凡例：

① = 大問番号 ❶ = 段落番号 ❶ = 文番号

【構造】 = 【構造】

主 = 主語（部） 動 = 動詞（句） 目 = 目的語（句・節） 補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞（句・節） 関代 = 関係代名詞 過分 = 過去分詞 など

「 」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[] / { } / [[]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめ

*❶ = 【解説】とくに注意を要する箇所の指摘および解説

【暗例】 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする

() = 省略可、あるいは補足・別表現

[] = 直前の語句との入れ換え可

< > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

【語句】 = 【語句】

[|] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語 など

注意：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

I

1 ① In late 2009, Swedish ad agency DDB Stockholm launched an online campaign for Volkswagen.

構造 副 **In late 2009**, 「2009年の終わりがち」 主 **Swedish ad agency DDB Stockholm** 「スウェーデンの広告代理店 DDB ストックホルムは」 動 **launched** 「開始した」 目 **an online campaign** 「オンラインのキャンペーンを」 副 ¹**for Volkswagen**. 「フォルクスワーゲンのために」

*1: 〈前置詞＋名詞〉の意味のまとまりは原則として副詞句と考える。このときの名詞を〈前置詞の目的語〉という。

語句 late [léit | レイト] 形 「終わりがちの」、Swedish [swi:dɪʃ | スウィーディッシュ] 形 「スウェーデンの」、ad [æd | アド] 名 「広告 (advertisement [ædvɜ:táizmənt | アドヴァタイズメント] の略語)」、agency [éidʒənsi | エイヂェンスイ] 名 「代理店」、DDB Stockholm [stákhoulm | スタクホウウム] 名 「DDB ストックホルム (米 DDB ワールドワイドグループ傘下の広告企業。2019年時点で NORD DDB に所属)」、launch [lɔ:ntʃ | ローンチ] 動 「打ち上げる、始める」、online [ánlain | アンライン] 形 「オンラインの、インターネットの」、campaign [kæmpéin | ケムペイン] 名 「キャンペーン、組織活動」、Volkswagen [fóukswægən | フォウクスウェゲン] 名 「フォルクスワーゲン (ドイツの世界的自動車メーカー)」

2 Volkswagen was releasing a new eco-friendly car that was designed make driving more fun, so DDB named the campaign The Fun Theory.

構造 主 **Volkswagen** 動 ¹**was releasing** 「フォルクスワーゲンは発売しようとしていた」 目 **a new eco-friendly car** 関代 ²**that was designed** 副 {³**to make driving more fun**}, 「運転をより楽しくするために設計された新たな環境にやさしい車を」 副 **so** 「それで」 主 **DDB** 動 ⁴**named** 目 **the campaign** 補・名 **The Fun Theory**. 「DDB はそのキャンペーンをファン・セオリー (楽しみ理論) と名付けた」

*1: 進行形は「(その時点でまさに)～している」以外に、「(近い未来に)～しようとしている」の意味がある。ここでは後者の意味。[暗例] I'm leaving for home tomorrow morning. 「明朝、自宅に向けて出発するつもりだ。」

*2: that は主格の関係代名詞。関係代名詞は、文を名詞節に変換するときに使われる記号。ここでは、文 a car was designed 「車は設計された」が、先行詞を a car とする名詞節 a car that was designed 「設計された車」に変換されたもの。先行詞が文の主語にあたるので、関係代名詞が主格ということ。

*3: 副詞の用法の to 不定詞 「～するために」。ここでは動詞 was designed を修飾している。なお、make O C は「O を C にする」の意味 (第 5 文型)。

*4: name O C 「O を C と名付ける」 (第 5 文型)

語句 release [rili:s | リリース] 動 「放つ、発売する」、eco-friendly [i:koufréndli | イーコウフレンドリ] 形 「環境にやさしい」、design [dizáin | デザイン] 動 「設計する」、fun [fán | ファン] 名 「楽しいもの」、theory [θi:əri | ティーオリ] 名 「理論」

3 “Fun can change people’s behavior for the better,” one executive explained, so perhaps a dose of fun would nudge drivers to try the new car.

構造 ¹主 **“Fun** 動 **can change** 目 **people’s behavior** 「「楽しみは人々の行動を変えることができる」」 副 ²**for the better,**”

「『よりよい方に』」 主 **one executive** 動 **explained**, 「と、1 人の幹部は説明した」 副 **so perhaps** 「だからおそらく」 主 **a dose of fun** 「一服の楽しみは」 動 **would** ³**nudge** 目 **drivers** 「運転手を促すかもしれない」 [to try 目 **the new car**]. 「その新車を試すことに」

*1: 引用符で囲まれた部分は、動詞 explained の目的語。また、so perhaps 以降の節も同様、one executive が説明した内容と解釈できる。

*2: better に定冠詞 the がついてるのは、「よい方」と「悪い方」の二者択一によって限定されるからである。for the better [worse] 「よりよい [悪い] 方向に」の意味で覚えてしまうとよい。[暗例] He is the better pitcher of the two. 「彼は 2 人のうちでよりよい投手である。」⇒ He is the best pitcher of the three. 「彼は 3 人のうちでもっともよい投手である。」(※形容詞の最上級表現は the で限定するのが原則)

*3: 〈V O to do〉の形をとる動詞は数多いが、このときの目的語 O と to do の間には主語と動詞の関係があることが多い。ここでは drivers が try することを表す。

語句 behavior [bihéivjər | ビヘイヴァ] 名 「振る舞い、行動」、for the better 「よりよい方に」、executive [igzékjətiv | イグゼキュテヴ] 名 「幹部」、explain [iksplein | イクスプレイン] 動 「説明する」、perhaps [pərhæps | パハプス] 副 「たぶん」、a dose [dóuz | ドウズ] of ～ 「(薬など) 一服の～」、nudge [nʌdʒ | ナチ] 動 「(軽くひじでつついて) 押す、促す」、try [traí | トウライ] 動 「試す」

4 To generate buzz, DDB launched a series of clever experiments around Stockholm.

構造 副 **To generate buzz**, 「話題を生み出すために」 **DDB launched a series of clever experiments** 「DDB は一連の賢い実験を始めた」 副 **around Stockholm**. 「ストックホルム周辺で」

語句 generate [dʒénəreit | ジェネレイト] 動 「生み出す」、buzz [báz | バズ] 名 「話題、流行」、a series [siəri:z | シェアリーズ] of ～ 「一連の～」、smart [smá:rt | スマート] 形 「賢明な、巧みな」、experiment [ikspérəmənt | イクスペリメント] 名 「実験」

5 Each one turned an otherwise mundane behavior into a game.

構造 主 **Each** ¹**one** 動 **turned** 「それぞれが変えた」 目 **an otherwise mundane behavior** 「さもなくばありふれた行動を」 副 **into a game**. 「ゲームに」

*1: 不定代名詞 one は、その前に言及された名詞の単数を指す (ここでは experiment を指す) が、それを限定的に表さない点で it とは異なる。[暗例] “I’ve lost my wallet. If I can’t find it, I’ll have to buy one.” 『財布をなくしてしまった。もしそれが見つからないと、1 つ買わなくてはならないだろう。』(it は限定的な「なくした財布」を、one は限定的でない「これから買う財布」を指す)

語句 each [i:tʃ | イーチ] 形 「それぞれの (単数名詞を修飾する)」、turn O into ～ 「O を～に変える」、otherwise [ʌðərwaiz | アダワイズ] 副 「さもなくば」、mundane [mʌndéin | マンデイン] 形 「ありふれた」

2 ① The first experiment took place at central Stockholm’s Odenplan metro station.

構造 主 **The first experiment** 動 **took place** 「最初の実験は起こった」 副 **at central Stockholm’s Odenplan metro station**.

「ストックホルム中央のウーデンプラン地下鉄駅で」

語句 take place 「起こる、開催される」、central [séntrəl | セントウラツ] 形 「中央の」、metro [métrou | メトウロウ] station 「地下鉄の駅」⇒ metro 形 「大都市の」

2 Commuters had two options when exiting the station: to walk up a bank of twenty-four stairs, or to stand still on a narrow escalator.

構造 主 **Commuters** 動 **had** 目 **two options** 「通勤通学者には 2 つの選択肢があった」 副 [when ¹**exiting the station**]²: 「駅を出ようとするときに」 **to walk up a bank of twenty-four stairs**, 「つまり、24 階段の斜面を歩いて昇ること」 **or to stand still on a narrow escalator**. 「あるいは狭いエスカレーターに乗って動かずに立っていること」

*1: if や when などの接続詞に続く主語と be 動詞は、文脈上明らかかなものは省略され、分詞が続くことが多い。ここでは they (the commuters) were の省略。

*2: コロン (:) は言い換えを表す。ここでは two options の具体的な内容が 2 つの to 不定詞で説明されている。

語句 commuter [kəmju:tər | コミュータ] 名 「通勤通学者」、option [ápɔ:n | オプション] 名 「選択肢」、exit [éksit | エクサイト] 動 「退出する」 名 「出口」、bank [bæŋk | バンク] 名 「(川などの) 土手、斜面」、stairs [stéəz | ステアズ] 名 「(複数形で) 階段の段」、still [stíl | スティゥ] 形 「動かない、静かな」、narrow [nárou | ナロウ] 形 「狭い」、escalator [éskəreitər | エスカレイター] 名 「エスカレーター」

3 Surveillance footage showed that commuters were lazy by default, piling onto the crowded escalator rather than taking the empty staircase.

構造 主 **Surveillance footage** 動 **showed** 「監視カメラの映像は示した」 目 [接 **that** 主 **commuters** 動 **were** 補・形 **lazy** 副 **by default**, 「通勤通学者はそもそも怠惰だったということ」] **分構** ¹{**piling onto the crowded escalator** 「混雑したエスカレーターに重なって」 ²**rather than taking the empty staircase**}, 「空いている階段を使うことよりむしろ」

*1: 分詞構文とは、副詞節において、主節と同じ主語を省略し、動詞を現在分詞で始める表現のこと (接続詞は省略することもしないこともある。また、受動態の being は省略され、結果的に過去分詞で始まることもある)。ここでは、目的語となる that 節の中において、主節の主語である commuters が piling の主語にあたる。接続詞が省略されているのは、重要でない、あるいは文脈上明らかだからで、適切な意味を補えばよい。たいていは「～して、～しながら」で意味が通る。コンマに続くので、情報の追加と考える。

*2: A rather than B 「B というより (むしろ) A」の対比表現において、A と B は品詞や格が対等のものとなるのが基本。ただし、このように、動詞を対比する場合は B には動名詞がくることもある。

語句 surveillance [sə:rvéiləns | サーヴェイランス] 名 「監視」、footage [fútidʒ | フティチ] 名 「映像」、lazy [léizi | レイズィ] 形 「怠惰な」、default [dif:lt | ディフォールト] 名 「初期設定値、欠席」⇒ by default 「不参加で、もともと」、pile [páil | パイゥ] 動 「積み重なる」、onto [ántə | アントゥ] 副 「～の上に」、crowded [kráudid | クラウディド] 形 「混雑した」、empty [émpti | エムプティ] 形 「空っぽの」、staircase [stéərkeis | ステアケイス] 名 「階段 (の通路)」

4 The problem, DDB explained, is that stairs aren’t

fun.

構造 主 **The problem**, 「問題は」 ¹**DDB explained**, 「DDB が説明したが」 動 **is** 補・名 [**that stairs aren’t fun**]. 「階段は楽しくないということだ」

*1: 全体の文構造としては、The problem is that ～は、主節 DDB explained (that) に続く目的語。実践的には、この主節が挿入されていると考えて問題ない。

5 So, late one evening, a team of workers converted the staircase into an electronic piano.

構造 副 **So**, 「それで」 副 **late one evening**, 「ある晩遅く」 主 **a team of workers** 「ある作業チームが」 動 **converted** 目 **the staircase** 副 **into an electronic piano**. 「階段を電子ピアノに改造した」

語句 convert [kɔnvə:rt | コンヴァート] 動 「変換する」、electronic [ilektrónik | イレクトロニク] 形 「電子の」

6 Each stair became a piano key that played a loud tone in response to pressure.

構造 主 **Each stair** 動 **became** 「それぞれの段は～になった」 補・名 [**a piano key** 関代 **that played a loud tone** 副 **in response to pressure**]. 「圧力に反応して大きな音を演奏するピアノの鍵 (けん)」

語句 key [ki: | キー] 名 「鍵 (かぎ・けん)」、play 動 「演奏する」、loud [láud | ラウド] 形 「(音が) 大きな」、tone [tóun | トウン] 名 「音、音色」、in response [rispáns | リスパンス] to ～ 「～に反応して」、pressure [préʃər | プレシャ] 名 「圧力」

7 In the morning, commuters approached Odenplan’s exit as they usually did.

構造 副 **In the morning**, 「朝に」 主 **commuters** 動 ¹**approached** 目 **Odenplan’s exit** 「通勤通学者はウーデンプラン駅の出口に接近した」 副 [接 ²**as they usually did**]. 「彼らがいつもそうしていたように」

1: 動詞 approach は他動詞なので、目的語をとるために前置詞を必要としない。 approach to と表現してしまう間違いが多い。ただし、名詞 approach の場合には to が必要になることもあるので、あわせて注意する。

*2: 「～のように」(様態) を表す接続詞の as。これが導く節全体は副詞節で、主節に対する従属節。なお、代動詞 did は approached を表す。

8 At first, most took the escalator, but a few happened to take the stairs, unintentionally composing brief melodies as they left the station.

構造 副 **At first**, 「当初」 主 ¹**most** 動 **took** 目 **the escalator**, 「ほとんどがエスカレーターを利用した」 接 ²**but** 「しかし」 主 **a few** 動 **happened to take** 目 **the stairs**, 「数人がたまたま階段を利用した」 **分構** [副 **unintentionally** 「意図せず」] 動 **composing** 目 **brief melodies** 「簡単なメロディを作曲しつつ」 副 [接 ³**as they left the station**]. 「彼らが駅を去るにつれて」

*1: 主語は必ず名詞なので、この most は名詞。most commuters を省略したものとする。but に続く a few も同様。

*2: この but は等位接続詞で、それ以前と以後の内容を等位に逆接する。*3 の接続詞 as は主節に対する従属節を導くので、従位(従属)接続詞という。

*3: この as は〈時・連動〉を表し、「～するとき、～するにつれて」などと訳せる。ここではどちらの訳でもよい。